

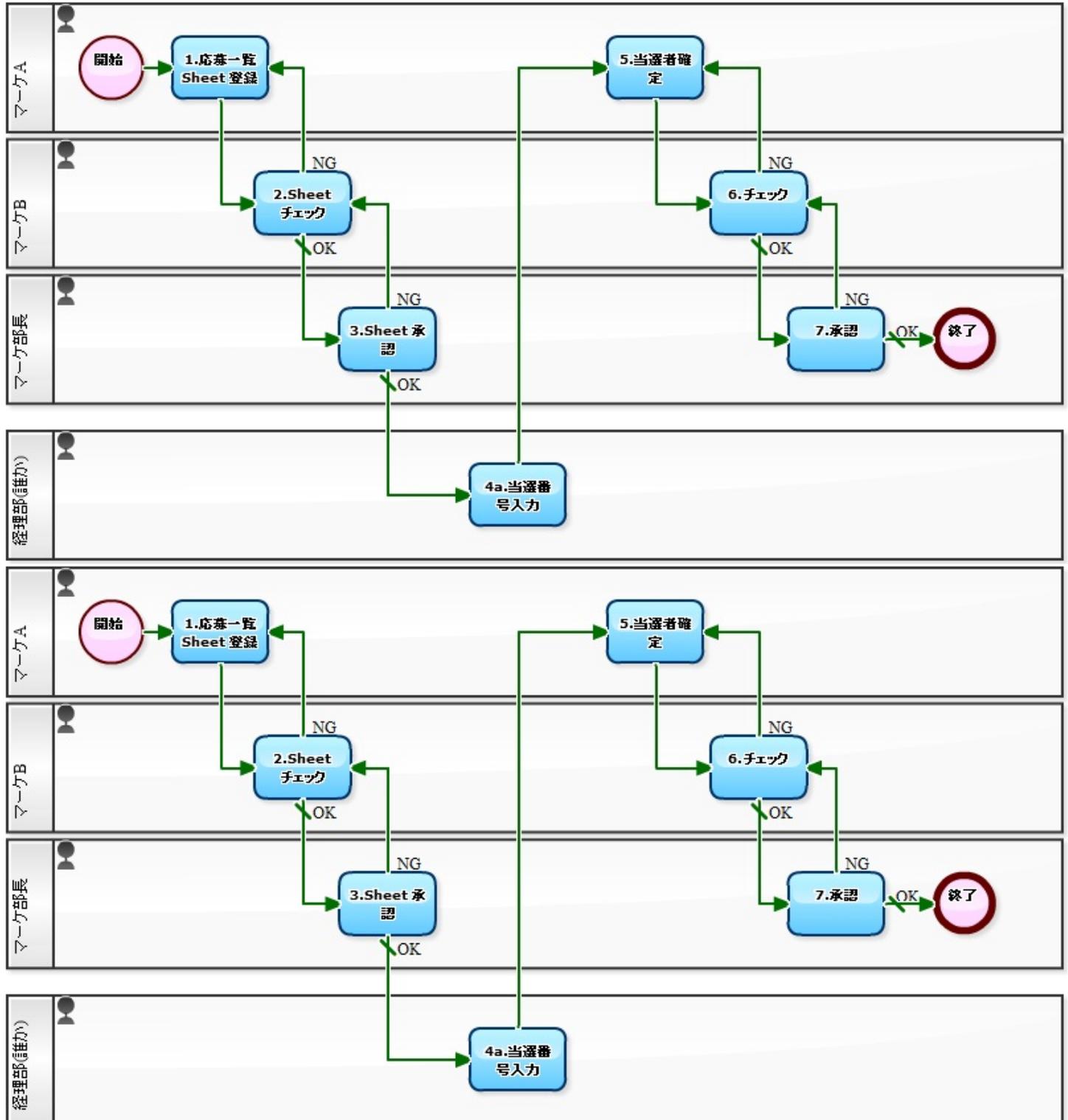


はっぱふみふみ

ホントに公正な「厳正なる抽選プロセス」

『1名様に世界一周旅行をプレゼント』の抽選なら、風車型の抽選マシンを回して、大勢の面前でワイワイ楽しい抽選会を実施する。でも『100名様にiPadをプレゼント』となれば、そうも行かない。

まずは「厳正なる抽選」である事を、誰にでも説明できる様にしておきたい。例えば「コンピュータで自動抽選」と説明したところで、やはり「転記ミスはないの?」「2~3人で密室処理してたりしない?」など、小市民は何かと質問したくなる。出来る事なら「社内不正の発生確率が低い」あるいは「ミスや手戻りが発生しない」、そんな業務手順を考えたい。



Web フォームで受け付ける事が多いコノ世界、やはり応募者一覧はエクセルで管理する。まず、明らか0にデタラメなメールアドレスや、重複登録などを削除し「応募一覧Sheet」を確定させる(1~3)。その後、エクセルの使い手でもある経理部に「応募総数と当選人数」だけを伝えて「当選番号リスト」を作成(4)してもらい(乱数関数を使う)、当選番号を確定させる。当然、経理部は「応募一覧Sheet」を閲覧できない。要するに経理部と、マーケティング部の部長がケツ

クしない限り当選者を恣意的に決める事は出来ない仕組みだ。
ちなみにシステムを活用する事で、各タスクの操作が時刻とともに記録される。すなわち「やり直し」などのズルも防げる。

全当選番号を全て加算する「マジックナンバー」を社長に決めさせて（最終当選番号は剰余値）
、更に恣意的な抽選を困難にするワークフローも考えられる。

